

事務事業及び予算の執行実績

(令和4年度分「一部、令和5年度分を含む」)

静岡県立御殿場特別支援学校

御殿場市神山1553-3

電話 0550-87-8200

FAX 0550-87-8211

目 次

□	事 務 事 業 の 概 要	1
	事 務 執 行 の 根 拠 法 令 調	18
	学 校 施 設 の 概 要	19
	在 籍 生 徒 調	21
	入 学 志 願 者 及 び 入 学 者 数 調	23
	卒 業 生 の 動 向 調	24
	生 徒 の 状 況	25
	特 別 支 援 学 校 に お け る 生 産 物 売 払 調	27
□	預 金 調	28
□	委 託 料 等 歳 出 予 算 執 行 状 況 節 別 集 計 表	29
□	委 託 料 に 関 す る 調	30
□	負 担 金 支 出 調	33
□	公 有 財 産 調	34
□	借 地 借 家 等 調	36
□	事 務 機 器 等 の 債 務 負 担 行 為 又 は 長 期 継 続 契 約 に 係 る 調	37
□	行 政 財 産 貸 付 ・ 使 用 許 可 調	38
□	主 要 備 品 調	39
□	職 員 調	40
	職 員 の 年 齢 調	45
	健 康 管 理	46

□□□□□□

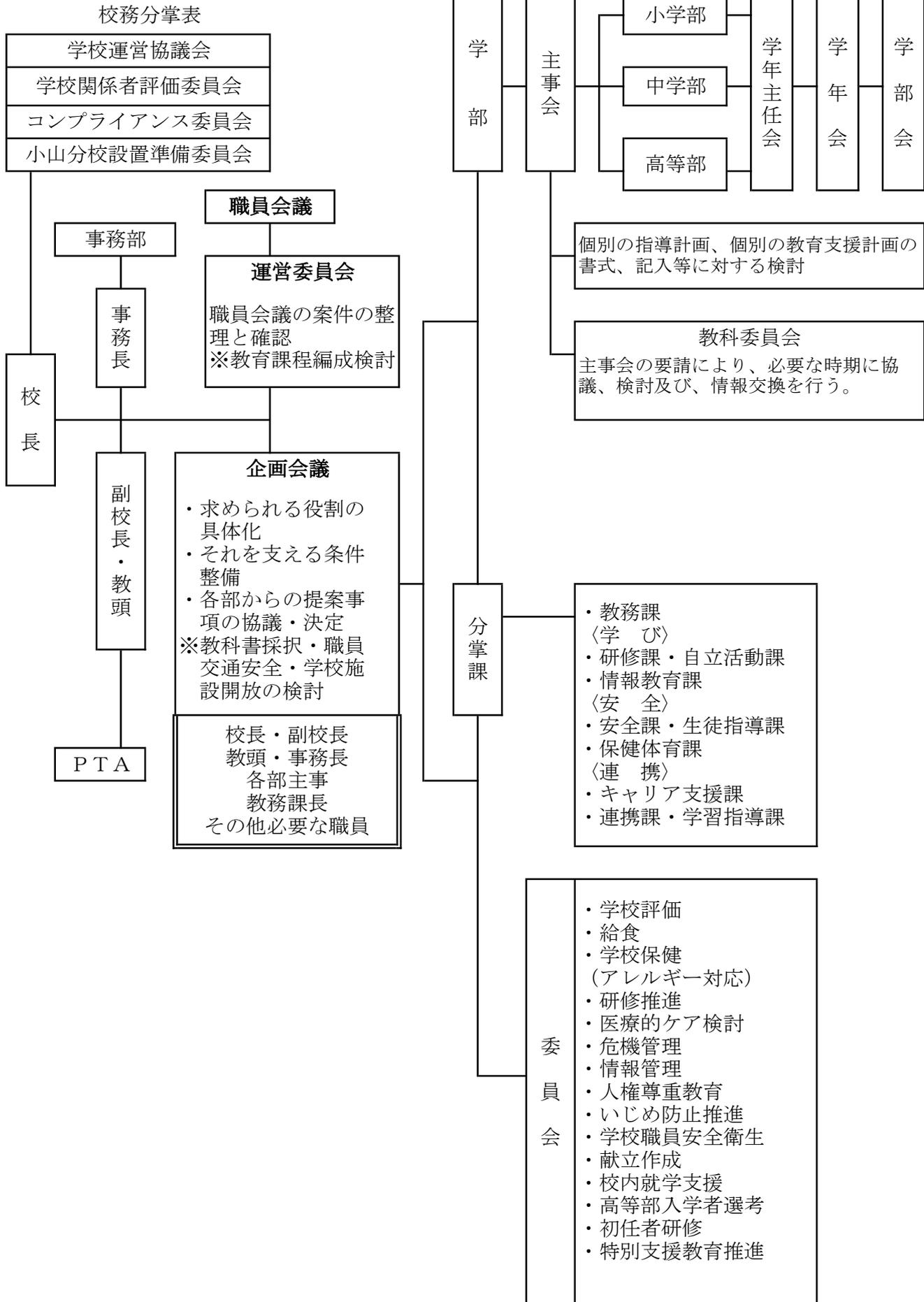
事務事業の概要

1 概況

(1) 学校の沿革

昭和32年 4月	御殿場市立高根小学校に精神薄弱児（知的障害児）教育のため特殊学級（養護学級）1学級設置
昭和35年 4月	御殿場市立御殿場小学校、同御殿場中学校に精神薄弱特殊学級1学級を設置
昭和35年 10月	秩父宮妃殿下の御来臨をおおぎ、荒木文相の御殿場市立御殿場学園の命名により開園式を挙行 御殿場市萩原318番地の1に開園
昭和37年 4月	高根小学校特殊学級を統合
昭和38年 4月	公立養護学校に認可 校名「御殿場市立養護学校」
昭和38年 11月	秩父宮妃殿下の御来臨をおおぎ、開校式を挙行
昭和42年 9月	御殿場市保土沢924番地へ新校舎新築移転（木造平屋建て3棟）
平成4年 4月	高等部開設
平成4年 10月	校区である2市1町（御殿場市 裾野市 小山町）の関係者が県教育委員会へ御殿場市立養護学校の改築と県立移管に関する陳情書を提出
平成6年 5月	県教育委員会に準備委員会が設置される
平成7年 1月	2市1町の教育委員会が県立養護学校の開設に関する要望書を提出
平成11年 10月	静岡県立御殿場養護学校設置条例議決
平成11年 12月	御殿場市立養護学校の廃止条例（御殿場市）議決
平成12年 3月	御殿場市立養護学校の廃止認可 県立移管に伴い新校舎等施設設備完成
平成12年 3月22日	御殿場市立養護学校閉校式典挙行
平成12年 3月31日	県立移管により御殿場市立養護学校閉校
平成12年 4月1日	静岡県立御殿場養護学校開校 初代校長 豊福和夫 就任
平成12年 4月10日	開校式、小学部、中学部、高等部入学式挙行
平成13年 4月1日	第2代校長 石田勝義 就任
平成14年 4月1日	学校週5日制開始される
平成15年 4月1日	第3代校長 渡邊嘉孝 就任
平成15年 10月27日	三笠宮信子妃殿下 御視察
平成16年 6月12日	県立移管5周年記念セレモニー（運動会同日開催）
平成16年 7月15日	河村文部科学大臣 来校
平成17年 4月1日	第4代校長 望月導章 就任
平成19年 4月1日	第5代校長 増田淳子 就任
平成20年 4月1日	静岡県立御殿場特別支援学校に校名変更
平成21年 4月1日	第6代校長 市野 清 就任
平成21年 11月28日	静岡県立御殿場特別支援学校開校10周年記念式典
平成22年 12月20日	中学部棟校舎完成
平成24年 4月1日	第7代校長 久保田壽美 就任
平成28年 4月1日	第8代校長 秋山 弓 就任
令和元年 11月30日	静岡県立御殿場特別支援学校開校20周年記念式典
令和2年 4月1日	第9代校長 鈴木晴久 就任
令和4年 4月1日	第10代校長 伊藤聖子 就任

(2) 組織図



2 目指す学校像

(1) 教育理念

個々の特性や発達段階に応じて、それぞれの可能性を最大限に広げるとともに、社会参加や自立に必要な知識・技能・態度の育成を図り、一人一人の自己実現を支援する。

(2) 教育目標及び具現化の柱

【令和4年度】

「学びあい ともに輝き 未来を創る」

ア 児童生徒が主体的に学びあい、生きる力を育む授業づくりを実践する。(学びを保障する力)

イ 安全・安心な学校を築き、児童生徒の豊かな心と健康な体を育む。

(命を守る、人を大切にする健康力・安全力)

ウ センターの機能を活用し、家庭・地域と共に歩む学校づくりを進める。

(これまで、これからもつながる連携力)

エ「チーム御特」で業務改善に取り組み、専門性向上に努める。

(3つの柱を推進するための業務改善を進めるチーム御特力)

【令和5年度】

「自分らしく のびやかに たくましく」

ア 授業力 自己実現に向け、自分らしく学ぶ、12年間のつながりある指導が充実する学校

イ 安心力 人、もの、ことに対する想像力が働き、皆が安心して過ごせる学校

ウ 共創力 コミュニティースクールとして、家庭・地域とともに、発展する学校

エ チーム力 教職員のチーム力で、課題に向かって前進する働きがいのある学校

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 4年度の取組目標への評価及び成果と課題

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア 小中高十二年間のつながりを見える化	◎キャリアパスポート作成の意味を理解し、活用できている。 ①目標設定や振り返りの場面など、児童生徒がキャリアパスポートを使う場面を含む授業を実践している。 ②児童生徒のこれまでの学びを知るために、キャリアパスポートを確認している。 ③面談時にキャリアパスポートを使い、児童生徒の学びを保護者と共通理解している。	・年度始めに学部ごとに取り組み方を共通理解した。 ・キャリアパスポートの活用紹介週間を実施。他学部や他学年の実践を見合うことができた。 ・高等部については年間を通じ目標・実践・反省のサイクルが機能し、担任、保護者、生徒で共有できた。 ① 授業での活用率 91% ② 引継ぎ資料としての活用率 85.4% ③面談時の活用率 86.5%	A	・ 中学部、高等部では授業実践で活用が進んでいるが小学部では学年や実態によって活用が難しいと感じている教員が多い。 ・ 年度始めに共通理解のための説明会を行い、今後はさらに目標が児童生徒の思いを反映されたものになるようにしていきたい。 ・「目標や学習への取り組み、成長について分かりやすく説明している。」と答えた保護者 100%

主体的・対話的で深い学びのある授業づくり (3年間のまとめ)	<p>◎授業評価による児童生徒の「みとり」を授業改善に活かしている。</p> <p>④観点別に立てた評価規準を基に、何がどの程度までできるようになったか、「みとり表」で評価し、次の授業改善に取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・助言者招聘研修を年2回実施。 ・一人一授業研では、PDCAサイクルに沿って授業づくりに取り組んだ。 ・他校の研修会について報告書や学習会で伝達、共有した。 <p>④「みとり表」の活用率 56.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの主体性を引き出し、人や物とのやり取りをとおして学ぶ授業を実践している。」と答えた保護者 97% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びのみとりシート」の形式や活用は課題があったが、研究授業を通して、授業検討・授業実践、授業評価を重ね、改善につなげていくことができた。 ・今後、児童生徒の個々の学び方分かり方に着目しながら授業改善を進めていく。
	<p>◎児童生徒の実態に合ったICT機器やアプリ等を選択し、授業の中で効果的に活用している。</p> <p>⑤児童生徒の実態や目的に合ったICT機器やアプリ等を選択し、活用できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材展示を実施。機器の活用事例について学んだ。 ・ICT活用広がっている。 <p>⑤実態や目的に合ったICT機器やアプリの活用率 83.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ICT機器活用が効果的だと答えた保護者 92.9% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用頻度は増えてきているが、教員のスキル格差が大きくなっている。 ・ICTミニ学習会だけでは、十分にニーズを満たすことができないため効果的な研修の方法の工夫が必要。
専門性の向上 (実態把握、支援方法)	<p>◎学習会の内容・教材の紹介等が指導に活かしている。</p> <p>⑥学習会等は、的確な児童生徒の実態把握や指導・支援方法の改善に役立っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習会、研修会、事例紹介、図書の実施。 (個別指導学習会、校内実践事例の紹介、教材・研修会の紹介、参考図書の紹介) <p>⑥学習会の有効率 95.5%</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習会等は障害理解や支援方法の勉強になり実践に活かされている。 ・学習会の内容を参加できなかった職員にも伝わるように報告の方法を検討していきたい。
イ 命を守る安全教育	<p>◎防災力を高める(常にバージョンアップ)緊急時には被災想定を踏まえた(自分の)行動の準備ができている。</p> <p>⑦児童生徒はどのような行動をするべきかが分かり、安全に避難することができている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練については予定通り実施。 ・まなぼうさい(防災学習)を計画的に実施。 ・校外学習での安全対応の確認を行うことができた。 <p>⑦児童生徒の避難行動定着率 97.8%</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練では、生徒がどのような基本的な行動をとればよいか理解して避難できた。 ・今後も計画的な安全教育を推進し危機管理意識の維持に努める。

	<p>◎校外学習での災害を想定し対応を学部学年で共通理解している。</p> <p>⑧校外学習を計画する際には「安全確認表」と「緊急時の対応及び避難場所」を学部学年で確認している。</p>	<p>⑧「安全確認票」の学年会での活用率 95.5%</p>	A	<p>・校外学習時の災害について意識を高めることができた。</p>
	<p>◎生徒はスマホ等の使い方のマナーを身につけ、安全に生活できている。</p> <p>⑨情報モラルの授業やスマホ等の使用に関する個別指導を実践。</p> <p>⑩スマホの使用に起因する事件・事故・それらにつながる案件が発生していない。</p>	<p>・情報モラルについて未知のトラブルを想像することが難しい生徒に対し指導が難しく、未然に問題を防ぐことができず、早期発見、早期対処が中心となってしまった。</p> <p>⑨授業実施、個別指導の実施率 75%</p> <p>⑩「起因する案件が発生していない」 54.5%</p>	C	<p>・スマホ SNS の指導は個別に対応できたが保護者への周知に課題が多い。今後、学習の機会や方法を検討し、実生活に合った指導ができるようにしたい。</p>
命を守る安全教育	<p>◎対応の仕方を確認し、実際の場面に備えることができている。</p> <p>⑪緊急時対応のマニュアルや記録表を使用して訓練を行い、実態に応じた体制を確認できている。</p>	<p>・緊急時対応マニュアル、記録表を活用した緊急時対応訓練を実施。</p> <p>⑪訓練、体制の確認実施率 96.6%</p>	A	<p>・緊急時対応訓練後、実態に応じた体制を確認した。反省を受けて記録表の書式の見直しを行った。</p>
	<p>◎医ケア児童生徒の理解ができている。</p> <p>⑫医ケア対象児童生徒が、どのようなケアを受けているか知っている。</p>	<p>・医療的ケアが安心安全にできるよう、研修や情報共有を定期的に行い実践した。担当外の教員の理解は進まなかった。</p> <p>⑫学部の医ケアの内容認知率 58.4%</p>	B	<p>・安全安心な医療的ケアの校内体制を継続、維持する。</p>
	<p>◎体育器具等の安全管理は常に徹底されており、安心して体育の授業ができている。</p> <p>⑬体育器具等の使用前には安全を確認し、破損等があったときには報告をしている。</p>	<p>・安全点検の結果を共有し、修繕依頼に速やかに対応。</p> <p>・事務室では週明け及び悪天候の翌朝に施設点検、巡回を実施。</p> <p>⑬破損の報告率 98.9%</p> <p>・「学校は危機管理体制の整備と安全教育を推進している。」と答えた保護者 96.4%</p>	A	<p>・経年劣化による体育器具の破損が多くあったため、使用前後の安全確認を掲示板等で呼びかけた。安全管理を徹底し、安心して体育の授業に取り組むことができていた。</p>

人を大切にすると体の教育	<p>◎道徳授業の実践資料（一覧）を作成できた。</p> <p>⑭学習指導要領の内容を確認しながら道徳科の授業カードを作成し、授業を実践している。</p>	<p>⑭実践資料の作成率 77.5%</p>	B	<p>・道徳の授業実践は進んできたが日常生活の中で道徳心を育てていくよう般化するために内容を共有していきたい。</p>
	<p>◎児童生徒の手本となって人を大切にする「あいさつ」や「言葉かけ」、「態度」等を心掛けて行動している。</p> <p>⑮児童生徒の手本となって人を大切にする「あいさつ」や「言葉かけ」、「態度」等を心掛けて行動している。</p>	<p>⑮「実践している」98.9%</p> <p>・「学校はお子さんの人権を大切にした教育活動や教育環境を整えている。（あいさつ、言葉、掃除、整理整頓など）」と答えた保護者 99.4%</p>	A	<p>・人権について生徒が考える機会を設け、学習の中で人権標語を発案した授業があった。次年度、教職員も児童生徒も共に人権について考える機会を設けていきたい。</p>
	<p>◎生活年齢・発達段階に応じた保健指導（性教育を含む）を実践できている。</p> <p>⑯生活年齢・発達段階に応じた保健指導を実践できている。</p>	<p>・性教育の授業を4年生以上で実施。</p> <p>⑯保健指導の実施率 89.9%</p>	A	<p>・性の指導では学習の積み上げにより、日常生活場面に活かされている。</p> <p>・今後も保健の授業を定期的に実施し、生活に返しながら取り組んでいく。</p>
	<p>◎児童生徒は食への意欲を高め献立や食品、地域の産物に興味関心を広げている。</p> <p>⑰給食や食に関する授業により児童生徒のよいあられが見られる。</p>	<p>・全体計画に基づいた給食指導、栄養教諭と連携した食に関する授業を実施。</p> <p>⑰「見られる」と答えた教員 96.6%</p> <p>・「学校はお子さんの食への意欲を高め、献立や食品、地域の産物に対する興味関心を広げている。」と答えた保護者 97.6%</p>	A	<p>・SDGsと食育と関連させることで、食への関心が高まり、給食の残食も減った。</p>
	<p>◎児童生徒が自分の作品や他者の作品を見たり、感想を发表或しする等、図工・美術への興味を高める機会になっている。</p> <p>⑱学習発表会の掲示物の再展示、富士山学習の展示において、児童生徒が他学年や他学部の作品を見学する機会を設けた。</p>	<p>・図工・美術作品を見合う場を設定できたが、準備段階の情報共有が不十分であった。</p> <p>⑱見学、鑑賞の設定実施率 82%</p>	A	<p>・学習発表会後に校内展示を見て回る機会をもつことで鑑賞の時間をとり、展示作品に興味深く見ることができたクラスが多かった。</p> <p>・教員が美術科教員から専門性を学び作品の質を高められるとよい。</p>

ウ	社会に開かれた学校づくり	<p>◎地域資源を活用した授業や地域の人と一緒に取り組む活動が充実している。</p> <p>⑱学習の効果を高めるため、発達段階や学習・活動の目的に応じ、地域資源（場所・人）を意図的、計画的に利活用している。</p> <p>⑳地域資源（場所・人）を利活用する際には、児童生徒の実態、授業や活動のねらいや目的を地域の人たちに伝えている。</p>	<p>・地域の公園への校外学習、商業施設への納品、地域イベントへの参加など計画的に実施。</p> <p>⑱利活用率 89.9%</p> <p>⑳目的の共有の達成率 88.8%</p> <p>・「学校は、共に育ち合う交流や共同学習を充実させたり、地域の施設の利用や人材を積極的に活用したりする等、社会に開かれた教育を推進している。」と答えた保護者 97.6%</p>	A	<p>・地域や同年代の人と関わりは児童生徒の学習意欲につながった。また、児童生徒のことを知ってもらう機会となった。今後もつながりを大切にしたい。</p> <p>・地域資源や人材は、必要に応じて計画的・積極的に活用していく。</p>
	共生教育の充実	<p>◎児童生徒が交流で友達に会うことを楽しみにしている。</p> <p>◎交流籍を通して児童生徒が地域の友達とのつながりが深まっている</p> <p>⑳交流場面では、児童生徒が関わりを受け入れたり、自分から関わったりして交流を楽しんでいる。</p>	<p>・学校間交流実施。（神山小、富士岡中、御殿場高）</p> <p>・交流籍（居住地校）交流実施。</p> <p>㉑「楽しんでいる」と答えた教員 93.3%</p>	A	<p>・コロナ禍であったが対策を講じて実施することができた。</p> <p>・活動を通して互いに認め合い協力し合う活動ができた。今後も継続していきたい。</p>
	地域への役割の充実	<p>◎中学校、高等学校からの依頼に応じ必要なサポートができています。（強化）</p> <p>⑳相談に対して必要な支援や連携を基に、対応することができています。</p>	<p>㉒「できている」と答えた教員 95.5%</p>	A	<p>・小・中学校、高等学校からの教育相談や研修会に対応し、センター的機能の役割を担った。</p>
		<p>◎児童生徒と福祉やSCとを結ぶ等、校内での支援は充実している。（強化）</p> <p>㉓（特別支援教育コーディネーターは）担任からの情報を基に、必要に応じて関係機関やSCと連携することができている</p>	<p>㉓「できている」と答えた教員 98.9%</p> <p>・「学校は市町の福祉課やスクール・カウンセラーなどと連携し、支援を受けられるためのサポート体制を充実させている。」と答えた保護者 91.1%</p>	A	<p>・校内のニーズを把握し、スクール・カウンセラーにつないだり、コーディネーターが相談に応じたりすることができた。</p>

		<p>◎HP や学校紹介ビデオを活用して、センター的機能の情報発信ができています。</p> <p>②④本校の HP はセンター的機能を果たすために必要な情報発信ができています。</p>	<p>②④「できている」と答えた教員 91%</p> <p>・「学校だよりやホームページ等とおし、学校の様子がよく分かるように情報を発信している」と答えた保護者 95.2%</p>	A	<p>・今後、教育相談の内容や支援の連携について活かせる内容を掲示板等で教職員に紹介する。</p> <p>・情報課とも相談し、センター的機能の実績についてホームページで公開する。</p>
エ	コンプライアンス意識の向上	<p>◎職場の雰囲気構築、自分のことを相談したり、雑談したりして会話を楽しむ職場の雰囲気が構築されている。</p> <p>②⑤児童生徒や授業、自分の業務などについて、周囲の先生方に相談をしたり、一緒に雑談をしたりすることができている。</p>	<p>・職員交流は教材研究を兼ねたスポーツ競技体験を実施。</p> <p>②⑤「できている」と答えた教員 100%</p>	A	<p>・今後も風通しの良い学校風土を作るため、教職員が前向きになるような取組を進める。</p>
		<p>◎飲酒運転0 個人情報漏洩0 体罰0 スクールセクハラ0</p> <p>②⑥不祥事根絶研修で飲酒運転や情報漏洩、体罰やスクールセクハラが人を傷つけ、絶対に許されない行為であることを確認し、防止策や対処法を考えている。</p>	<p>・不祥事根絶研修は職員会議を利用した全体研修やグループワークを実施。</p> <p>・不祥事0。</p> <p>②⑥防止策や対処法を考えていると答えた教員 98.9%</p>	A	<p>・不祥事根絶研修はグループワークなどで、一人一人が自分を振り返り、意識を高めることができた。</p>
		<p>◎OJT やミニ学習会で学んだことを、指導や支援等に活かすことができています。</p> <p>②⑦OJT や学部でのミニ学習会で学んだことが、指導・支援方法の改善に役立っている。</p>	<p>・学部、分掌ごとのミニ学習会を実施。</p> <p>・学習会や研修会の情報・報告を掲示板で発信。</p> <p>②⑦学んだことの活用率 95.5%</p>	A	<p>・ミニ学習会では実践的な内容を計画し、実践で活用できた。</p> <p>・職員のニーズに応じて計画的かつコンパクトに実施していく。</p>

(2) 5年度の取組目標・達成方法・成果目標（ゴシック体は重点目標）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	子どもを主語にした自立と社会参加を目指した指導と支援が12年間つながるシステムづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートの教育課程上の位置づけや学部、学校間の引継ぎの明確化 ・教員向けオリエンテーション、保護者説明年1回以上 ・年間指導計画と学習指導要領との関連の見える化 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒は、キャリアパスポートを使って、自分の頑張ったことなどを振り返る場面がある。 ・授業づくりの際、学習指導要領との関連を確認している。 	教務課 キャリア支援課 研修課 自立活動課 学部学年12年のつながり検討委員会

	自分らしく学ぶ知的障害の児童生徒の思考に沿った授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> グループ研修による授業力の向上「一人ひとりが『自分らしく学ぶ』授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の分かり方や学び方を捉え、何を育てたいか、どんな力を身につけているかを明確にした授業づくりをしている。 	研修課 学部学年 事務部
	授業や業務での効果的なICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> 外部専門家やDX課の活用、先進校視察（あすなろ協力実践校） 定期的な校内ICT活用状況調査と実践事例の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の目的を達成するためにICTを活用している。 ICTの活用により、業務効率化が図られている。 	全部署 情報教育課 学部学年
イ	社会の変化に対応し、人、もの、ことに対する想像力を育てる教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの部署が作成する全体計画の充実と活用（学校経営書に入れて活用、次年度に向けた更新） 	<ul style="list-style-type: none"> 学校安全全体計画（安全指導・安全学習）、学校保健全体計画（保健教育）、人権教育全体計画、道徳教育全体計画、食に関する指導の全体計画を年間指導計画の作成や授業づくりに生かしている。 安全教育、保健教育、人権教育（情報活用に関する内容を含む）、道徳教育、食に関する指導に、生活年齢、発達段階、個々の特性を意識して取り組んでいる。 	安全課 保健体育課 生徒指導課 学習指導課 情報教育課 教科部会 学部学年 事務部
	柔軟でたくましい心と体を育む体育と情操教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 情報活用マインドの育成 学校保健委員会、食育委員会へのPTA専門部の参加 楽しみながら身体の機能を保持・増進させる体育 学校祭としての「学習発表会」に向けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> 体育、音楽、美術の授業で自分や友達の良さを見つけたり、仲間と取り組む楽しさを味わったりする場面がある。 	
ウ	地域と目的を共有する開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域活性学校協働本部と授業や事業の目的の共有（学校応援団パンフレットの作成） 校区の義務教育、高等学校、放課後等デイサービスへの支援事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 外部人材活用の際、授業の目標を共有し「学習評価」を協力団体に返している。 授業支援、ケース会議、学校公開が役に立ったという外部の感想をいただいている。 	連携課 部主事会 学部学年 管理職
エ	働きやすい職場環境でやりがいを感じ、ワークエンゲージメントの向上を実現するチームづくり	<ul style="list-style-type: none"> 働きやすい職場環境づくりのための業務量の調整や情報整理 学び合いと頼り合いの職場環境で、お互いの専門性の向上を図るOJTの推進（オリエンテーションと振り返りの実施） 	<ul style="list-style-type: none"> 働きやすい工夫が3つ以上ある。 教職員は自分の帰宅時間を自分で決め、業務をマネジメントしている。 教職員は各自研修テーマを持ち主体的に研修している。 	管理職 部主事会 自立活動課 事務部

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックのレガシーを活かした御殿場市の進めるスポーツ交流の参加校となり、これまでに深めてきた地域交流について、さらに関係機関や対象種目を広げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校が長年取り組んできた大坂区の老人会とのボッチャ大会をスポーツ交流課の職員が視察し、地方紙の取材受けるなど、活動の幅を広げた。 ・今後は対象種目を広げ、児童生徒の興味関心を広げる機会としていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員、児童生徒が緊急対応訓練や防犯学習について「自分事」として考え、意識を持ち、実践力が付くよう、より身近な場面を設定し、小グループで進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まなぼうさい（防災学習）、まなぼうはん（防犯学習）を学部で計画的に進め、地震や火災時の対応を学んだり、災害用グッズを作ったりした。授業内容は、廊下に掲示し共有した。

年度	取組概要	成果及び課題
5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の専門性向上と学校の課題として捉えられるテーマについて、小・中・高12年間のつながりを考えて研修に取り組めるように縦割りのグループを編成して研修を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5つのテーマから職員一人一人が自分で選んで研修を進めていくため、意欲的な取り組みとなっている。 ・年間3回のグループでの研修を行い、2回は講師の先生を招聘して研修の実践や確認等について御助言をいただき、研修を深めていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、各学部で行っていた学習発表会を「御特祭（学校祭）」とし、学習の成果や文化芸術作品の発表の場を計画している。校内での学習成果の共有の機会とするとともに、地域への教育活動の発信の機会とし、特別支援教育の理解啓発に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、校内に児童生徒の作品展示を充実させている。児童生徒通しがお互いの良さを認め合うとともに、外部参観者からも高評価をいただいている。 ・情操教育を特色として進めてきた本校の取組を地域に発信する機会としたい。

5 教職員について

(1) 異動状況

区分	本務職員								
	校長	副校長	教頭	教諭	栄養教諭	事務長	主査	主事	計A
転出		△ 1		△ 19	△ 1		△ 1		△ 22
退職				△ 5					△ 5
退職(再任用)				△ 1					△ 1
転入				14			1		15
昇任		1							1
新任				3					3
新任(再任用)				3					3
差引増減	0	0	0	△ 5	△ 1	0	0	0	△ 6

区分	臨時・会計年度任用職員										
	教諭(任)	教諭(臨)	養護教諭(臨)	養護教諭(任)	栄養士(臨)	非常勤講師	医療的ケア看護職員	非常勤労務職員	非常勤嘱託員	実習指導支援員	計B
転出											0
退職	△ 9	△ 5	△ 2			△ 2	△ 1	△ 12	△ 2	△ 1	△ 34
退職(再)											0
転入											0
昇任											0
新任	7	7		1	1		2	10	3	1	32
新任(再)											0
	△ 2	2	△ 2	1	1	△ 2	1	△ 2	1	0	△ 2

(2) 現員数

(令和5年6月30日現在)

区分	本務職員								
	校長	副校長	教頭	事務長	教諭	養護教諭	主査	主事	計A
男		1	1		36			1	39
女	1			1	55	2	2		61
計	1	1	1	1	91	2	2	1	100

区分	臨時・会計年度任用職員									
	教諭(任)	教諭(臨)	養護教諭(任)	栄養士(臨)	医療的ケア看護職員	非常勤労務職員	非常勤嘱託員	実習指導支援員	計B	職員合計A+B
男	1	2				1	2	1	7	46
女	6	5	1	1	1	8			22	83
計	7	7	1	1	1	9	2	1	29	129

(3) 健康管理について

ア 内容

職員の定期健康診断では、生活習慣病健診・人間ドック等の受診から結果を受けての事後措置までを確実にしている。また、日常の健康管理では、状態が悪化する前の予防や自己管理について職員が、学ぶ機会を設定している。さらに、健康管理医と連携を取り、職員の安全・衛生について検討することで、気になることや注意点などを確認している。

【令和4年度】

(ア) 定期健康診断の実施

育児休暇等の職員を除く定期健康診断受診率は100%であった。令和4年度から定期健康診断の実施方法に変更があったため、例年よりも説明の機会を多くし、再検査、精密検査まで言葉掛けをした。

(イ) 日常の健康管理

日常の健康管理については、特に腰痛予防・メンタルヘルスに配慮するよう自己管理を促した。例年同様の計画し、感染症の状況に応じた方法で実施した。

内 容 (実施回数等)	
ア	腰痛検診、腰痛予防講座（腰痛検診2次検診対象者に年1回開催）への参加
イ	腰痛体操の実施（適宜）
ウ	管理職による面談・相談（必要に応じて）
エ	心の健康相談窓口や面談カウンセリング・健康管理医との面談（必要に応じて）

腰痛予防講座は、新型コロナウイルス感染症の流行のため、人数を限定し、腰痛二次健診対象者、肢体不自由児クラス担任、保健体育課を対象に行った。

健康管理医からも「早めの受診」を勧められていることから、体調不良時は早めの受診ができるよう配慮している。ワークライフバランスの意識向上のため、時間外勤務の削減に努めた。退勤時刻の目安を具体的に19時とし管理職から職員室全体に帰宅を呼びかけ、意識できるようにした。

(ウ) 学校職員安全衛生委員会

健康管理医を招いて、職員の安全衛生について協議を行った。協議の内、重要な事項については、個人パソコンの掲示板で確認できるようにした。健康管理医による健康相談の希望がある場合は、協議後に面談を行った

県からの通知等も参考に、協議内容を検討しながら委員会を行った。長時間労働者の把握を行い、職員の勤務状況について共有を図った。毎月時間外勤務の多い者を把握し、業務の偏りがいないか、業務が行き詰っていないかなどの声掛けの参考にした。

協 議 内 容			
第1回	内規の確認 年間計画の検討 *校内巡視	第7回	長時間労働対策について
第2回	校内緊急対応訓練反省より	第8回	感染症対策について*校内巡視
第3回	校内救急対応について（校内体制と環境）*校内巡視	第9回	感染症対策について
第4回	感染症対策（環境設備・健康） *校内巡視	第10回	環境衛生基準について *校内巡視
第5回	全国労働衛生週間について ストレスチェックの活用	第11回	内規・来年度計画案について、学校事故報告
第6回	職員の健康状態及び施設について気が付いたこと *校内巡視	第12回	職員健康診断助言、来年度に向けて *校内巡視

【令和5年度】

(ア) 定期健康診断の実施

定期健康診断及び再検査・精密検査の受診率100%を目指し、言葉掛けを行っている。昨年度から定期健康診断の実施方法に変更があったため、引き続き職員へ説明の機会を多くしている。年間を通して健康管理医との連携を図り、職員の健康状態を把握し、指導助言していく。

(イ) 日常の健康管理

児童生徒の介助による腰痛を訴える職員は多いため、腰痛検診により状態の把握を行う。積極的な受診を促すとともに、健康づくり講座を企画するなど、職員が日常的なメンテナンスを意識できるよう働きかける。

メンタルヘルスへの対応については、管理職及び健康管理医と連携して行う。必要に応じて、専門機関への相談を促すようにする。早めの対応を心掛ける。また、組織的に時間外労働の削減に努める。

(ウ) 学校職員安全衛生委員会

職員の健康状態の把握を行うとともに、異常の早期発見、早期対応（治療）に努める。健康管理医との連絡を密に取り、日程変更等がある場合でも、月に一度、委員会を開催する。協議は、長時間労働の把握、各学部等の職員の健康状態の報告を行い、気付いたことや改善すべきことについて報告を行う。また、健康管理医からも御助言をいただき、健康管理や、環境整備に努める。

イ 成果・課題

(令和4年度 成果)

定期健康診断の実施方法に変更があったが、例年よりも職員へ説明の機会を多くし、声掛けを行ったことで受診率は100%だった。

また、新型コロナウイルス感染症についても、職員も各自で対策をとっていたり、協力し合ったりすることで業務への影響はほとんどなかった。また、健康管理医から指導・助言をいただき、環境整備に活かすことができた。

(令和5年度 課題)

定期健康診断の要再検査者が受診を済ませるまでに時間を要するため、早めの受診を呼びかけていく。今年度より、会計年度職員も人間ドック対象となった。今までと異なるため、再検査、精密検査等ある場合は丁寧な説明をし、確実な受診を目指す。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、児童生徒の教育活動の幅が広がっている。久しぶりに実施する活動もあるため、準備や実施の前後の職員のメンタルヘルスを気に掛ける必要がある。年度初めの職員安全衛生委員会において健康管理医から「メンタルヘルスは良くなるまでに時間がかかるため、予防が重要」とご助言をいただいた。声を掛け合い、気づきを共有し、早めの対応ができるようにする。

(4) 教職員の研修について

【令和4年度】

ア 令和3年度まで「主体的・対話的で深い学びのある授業づくり」をテーマに、3年の研修に取り組んできたが、授業づくりにさらなる磨きをかけるため、全体テーマを変更せず、「何ができるようになるか」の具現化を目指した。授業後に、何がどの程度まで、できるようになったのか、児童生徒の学びを丁寧にとり、積み上げることで、単元目標の達成に向かえるよう研修を深めた。

目標に迫るためのステップとして評価基準を、目指す姿として観点別に評価規準を設け、評価の場面や目指す姿を授業者と、さらに授業参観者とも共有することで、一人一人の学びを複数の目で評価することができた。

これまで本校で具現化してきた「主体的・対話的で深い学びのある授業づくり」をもとに、「確かなみとりからの授業改善」に取り組むことで、児童生徒が実社会で活用できるような「育成を目指す資質・能力」を確かに育てる授業づくりについての研修を進めることができた。

目的	内容	成果・課題
主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを目指す。	<p>a 全体研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修テーマや方法、成果を共有する全体研修会（年2回） 新学習指導要領や授業づくりの理解を深める学習会 教材展示 <p>b グループ研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業力向上を目指した一人一授業研の実施 「学びのみとりシート」を活用した授業改善 外部講師を招聘した授業研修会（各グループ年2回） <p>c 公開授業及び実践報告会（1月18日、25日）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全体研修により、授業づくりの考え方を共有することができた。 講師招聘研修では、本校の授業の良さを確認するとともに授業改善の新しい視点を示唆いただき、研修を深めることができた。 一人一授業研や教材展示では、教員各人のキャリアに応じた研修成果が認められた。 学習評価に向け、客観的な指標を設定することの必要性を確認した。引き続き、学習指導要領の理解と授業改善に向けて研修を重ねていきたい。

イ 専門性向上を図る研修

目的	内容	成果・課題
・キャリアに応じた特別支援教育に係る専門知識の習得。	<p>主に、実態把握と支援方法に焦点を当て、OJTの手法で進めた。</p> <p>a 分掌課提案の講義及び演習型研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部講師を招聘しての研修会（自閉症の特性、食事支援、アセスメントの活用、PT・OT、保護者対応など） 教員講師によるICT機器活用演習 最新映像教具の体験 <p>b 学部単位での講義及び演習型研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 月一回以上 知的障害児の美術、クラス経営、地域交流など <p>c NES 掲示板等を活用した教材教具、書籍、外部研修会の紹介</p> <p>d 経年研修を軸としたペア研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 初任以外の経年研修対象者は、学年学部内のメンター教員とした。 中堅研対象者のメンターは、管理職とした。 	<ul style="list-style-type: none"> 分掌課の取組は、例年の研修内容に改善や追加をしながら進め、教員の要望に沿うものを設定することができた。 学部主事が主体となって進める内容についても、記録をとり、引き継いでいくことができたものとなった。 校内に講師を設定して行う研修は、より具体的に明日からの授業にすぐに活かせるものとなった。また、教えられ教えあう風土づくりにも寄与した。 経年研修では授業研を柱にししながら、クラス経営、生徒指導についての研修を深めた。

【令和5年度】

ア 令和元年度から令和4年度まで、「主体的・対話的で深い学びのある授業づくり」をテーマに掲げ研修に取り組んできた。実践を通して、学習指導要領を根拠にした目標や評価規準の設定の在り方、児童生徒の学びを想定した“仕掛け”について研修を深めることができた。一方で、児童生徒の視点から単元や授業の構想を練り、児童生徒の思考に沿った授業づくりを行うことについては課題が残った。

そこで今年度は、より児童生徒の思考に沿った授業づくりを行い、一人一人が「自分らしく学ぶ姿」を引き出すことを目指す。これまで取り組んできた PDCA サイクルの授業づくりをベースに、①生活課題を捉えて活動を設定すること、②「個別最適な学び」「協働的な学び」の視点から児童生徒の学びを想定することに着目した授業づくりを行う。

上記のような授業づくりを通して学校教育目標「自分らしく のびやかに たくましく」に迫りたいと考え、本研修テーマを「一人一人が『自分らしく学ぶ』授業づくり」と設定した。

目 的	内 容	成 果・課 題
一人一人が『自分らしく学ぶ』授業づくりを目指す。	a 全体研修 ・研修テーマや方法、成果を共有する全体研修会（年2回） ・教材展示 b グループ研修 ・各グループで作成した「単元づくりシート」を用いた授業づくり。 ・各グループのニーズに応じた学習会の実施。 ・外部講師を招聘した授業研修会（各グループ年2回） c 公開授業研究会（11月14日）	・授業づくりの共有を図るため、全体研修を5月に実施した。研修の目的や仮説、言葉の押さえなどを共通理解することができた。 ・各グループ講師招聘研修を行い、窓口教科についての理解や子どもの学びの見取り方について研修を深めた。 ・学校全体で方向性を共有しやすいように、事後研の持ち方や指導案の書き方をそろえることに課題がある。

イ 専門性向上を図る研修

目 的	内 容	成 果・課 題
・キャリアに応じた特別支援教育に係る専門知識の習得。	主に、実態把握と支援方法に焦点を当て、OJTの手法で進める。 a 分掌課提案の講義及び演習型研修 ・外部講師を招聘しての研修会（食事支援、アセスメントの活用、PT・OT、保護者対応など） ・教員講師によるICT機器活用演習 ・最新映像教具の体験 b 学部単位での講義及び演習型研修 ・月1回以上 ・知的障害児の美術、クラス経営、地域交流など c NES 掲示板等を活用した教材教具、書籍、外部研修会の紹介 d 12年間のつながり検討委員会 ・中堅研教員をリーダーとする5つのグループを編成する。 ・年4回グループごと集まって研修する。（うち2回は講師招聘） e 経年研修を軸としたペア研修 ・初任以外の経年研修対象者は学年部内にメンター教員を依頼し、授業研を柱にしながらクラス経営、生徒指導についての指導を仰ぐ。 ・中堅研対象者のメンターは、管理職とする。	・分掌課の取組は、例年の研修内容に改善や追加をしながら進めているため、体系化してきている。 ・学部単位の学習会は、学部のニーズに応じた内容となっている。また、校内の教員が講師となるため、相談しやすい環境が整っている。 ・書籍や外部研修会の紹介は、書籍の注文や研修会への参加など、自己研鑽につながっている。 ・12年間のつながり検討委員会は、全教員自身が研修を深めたいグループを選択したため、満足度が高いと考える。 ・ICT活用や教科の専門性向上のために、市内小中学校や県立学校の取組を参考にし、校内で情報を共有していきたい。

6 防災対策について

学校の状況として把握すべきことを確認し、学校の所在地の特徴、南海トラフ地震等の自然災害の被害想定及び大規模災害発生に備え、教職員の校内組織の編成と仕事内容の整理、防災計画の見直し等を重点として取り組んだ。

さらに、富士山噴火時や火災発生時、発災時の福祉避難所開設と学校再開など様々な事例に対応できるマニュアル作りを進め、以下の基本方針を元に教職員一同一丸となって防災意識を高めていく努力をした。

- (1) 校長を総指揮とする校内災害対策本部を設置し、防災に関する計画を立案した。
- (2) 校内防災組織を編成し、御殿場市防災対策本部、地域防災組織等との連携を密に取り組んだ。
- (3) 学校防災計画について保護者からの理解と協力を得られるようにした。夏期休業中には、避難所設営演習を実施した。
- (4) 非常防災設備の定期点検を行った。また、災害時に備えた備品、備蓄品の見直し、拡大を計画的に進めた。
- (5) 児童生徒の生命を守ることを第一に考え、教職員の判断力を高めたり、校内組織を整理したりするとともに、より実際の避難訓練を通して安全で統制の取れた行動を積み重ねた。あわせて防災教育を充実させ、全校体制で系統的に学んでいく仕組みを作った。
- (6) 発災時の運営マニュアルの見直しと、学校再開に向けた計画の作成、他機関との連携の強化に努めた。

【令和4年度】

ア 目標

- (ア) 安全意識を高める防災・安全教育を推進する。（自分の命を守る方法を知る）
- (イ) 防災力を高める。災害時には、被害想定を踏まえた行動の準備をすることができる。
- (ウ) 校外における災害を想定した対応を学部・学年で共通理解できるようにする。

イ 取組計画

実施日	想定	取り組み内容	対象者
令和4.4.12	教職員防災研修	今年度の取り組みの説明を行った。	全教職員
令和4.5.6	南海トラフ地震発生	避難訓練、避難経路確認（地震発生から一次避難まで）、保護者引き渡し訓練の実施。	保護者 全教職員
令和3.6～10月	災害時における安否確認	災害伝言ダイヤル、災害用web利用訓練の実施。	保護者 全教職員
令和4.7.4	地域での防災連絡会議へ参加	災害時における協力体制の確認を行った。	副校長 安全課長
令和4.7.13	火災発生	避難訓練と同時に安全教育を行った。	全教職員 児童生徒
令和4.8.1	教職員防災講座	県東部危機管理局の方の出前防災講座を聞いた。	全教職員
令和4.8.1	教職員避難訓練 避難所設営演習 地震発生 放課後のスクールバス運行時 (地震)	災害発生後、福祉避難所として開設することとなったことを想定し、班別活動の確認をした。 実際にスクールバスを走行させ、介助員と学校と連絡を品ながら、地震発生時の対応訓練を行った。	全教職員 拡大防災委員 生徒指導課員 スクールバス介助員 運転手
令和4.9.1	南海トラフ地震発生	災害発生からの1次避難と非常食試食を行った。	全教職員
令和4.11.17	富士山噴火警戒レベル3発令	避難訓練と同時に安全教育を行った。	全教職員 児童生徒
令和5.3.6	火災発生	避難訓練と同時に安全教育を行った。	児童生徒 全教職員

ウ 重点課題

- ・校内の災害対策組織作りを充実し、学校安全を強化していく。
- ・教職員一人ひとりの防災力の向上を図る。（自ら判断し、行動するため）
- ・防災計画や危機管理マニュアルなどの見直しや検討を図り、学校安全の推進をしていく。

【令和5年度】

ア 目標

- （ア）児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、防災・防犯・安全教育の充実を図る。
- （イ）教職員の防災・防犯意識の向上と想像力を働かせた避難訓練の実施をする。

イ 取組計画

実施(予定)日	想定	取り組み内容	対象者
令和5.5.9	南海トラフ地震発生	避難訓練、避難経路確認（地震発生から一次避難まで）、保護者引き渡し訓練を実施する。	全教職員 児童生徒
令和5.6～10月	災害時における安否確認	災害伝言ダイヤル、災害用web利用訓練を行う。	保護者 全教職員
令和5.7.12	地域での防災連絡会議へ参加	災害時における協力体制の確認を行う。	教頭
令和5.7.18	火災発生	避難訓練と同時に安全教育を行う。	全教職員 児童生徒
令和5.8.1	教職員防災講座	県東部危機管理局の方による出前防災講座の開催をする。	全教職員
令和5.8.1	教職員避難訓練 避難所設営演習 地震発生 放課後のスクールバス運行時（地震） 起震車体験	災害発生後、福祉避難所として開設することとなったことを想定し、班別活動の確認をする。 実際にスクールバスを走行させ、介助員と学校と連絡を取りながら、地震発生時の対応訓練を行う。起震車の体験をする。	全教職員 拡大防災委員 生徒指導課員 スクールバス介助員 運転手
令和5.9.1	南海トラフ地震発生	災害発生かの1次避難と非常食の試食を行う。	全教職員 児童生徒
令和5.9.7	引き渡し訓練	新入生、転入生を対象とした引き渡し訓練を行う。	教職員 保護者
令和5.1. (期日未定)	火災発生	避難訓練と同時に安全教育を行う。	全教職員 児童生徒

ウ 重点課題

- ・児童生徒自ら自分の命を守る力をつける防災学習を実施する。
- ・児童生徒の発達段階や個々の特性等を踏まえ、児童生徒自ら気づき解決する防災学習を提案する。
- ・実際の場面に即した訓練を重ねたり、研修を受けたりすることで、教職員の防災・防犯意識を高める。

7 学校開放について

実績なし

□□□□□□

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
学校教育に関する こと	教育基本法（第1条、第2条、第5条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第45条、第47条、第48条 第49条、第72条、第73条、第74条、第76条、第77条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 学校給食法（第4条） 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する 法律（第3条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領 静岡県就学指導委員会規則
学校の管理・運営 に関すること	学校教育法（第76条、第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第7条、第8条、第9条、第15条、第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 静岡県教育委員会処務規程 特別支援学校への就学奨励に関する法律 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒援助費 補助金交付要綱 要保護及準要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨 励費補助金交付要綱

□□□□□□

学 校 施 設 の 概 要

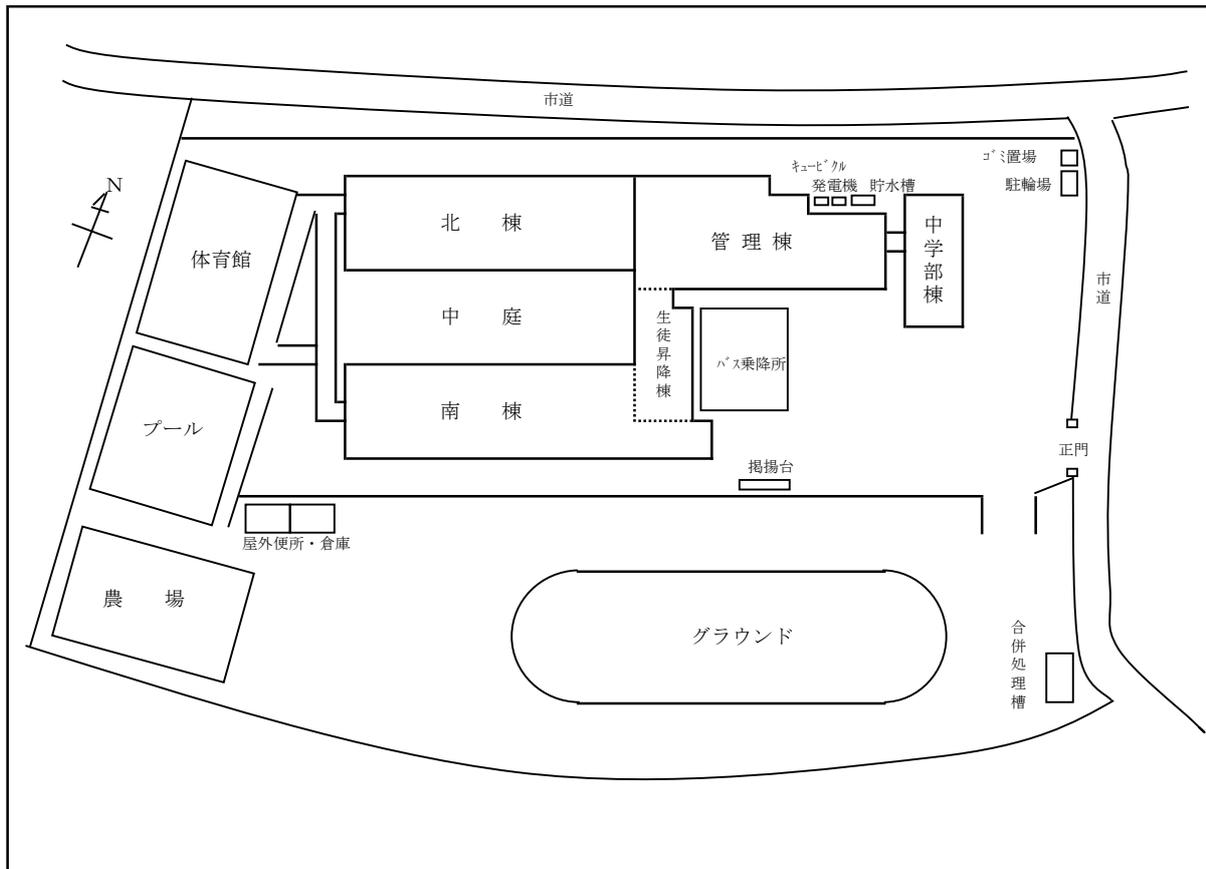
1 面積及び所有区分

(令和5年6月30日現在)

区 分	面 積 ㎡	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 ㎡	国 有 ㎡	市町村有 ㎡	後援会有 ㎡	民 有 ㎡	
学 校 敷 地	18,000.05	18,000.05					
内 訳	校 舎 敷 地	13,398.25	13,398.25				
	運 動 場 敷 地	4,238.80	4,238.80				
	そ の 他 の 敷 地	363.00	363.00				農 場
校 舎	建 3,470.48	3,470.48					
	延 5,621.31	5,621.31					
体 育 館	建 549.50	549.50					
	延 549.50	549.50					
そ の 他 の 建 物	建 387.65	387.65					
	延 387.65	387.65					
プ ー ル	25m×8m 10m×5m						4 コース

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	18,000.05 m ²	5,621.31 m ²	4,238.80 m ²
県平均	18,814.78 m ²	6,914.52 m ²	5,244.39 m ²

在 籍 生 徒 調

(令和5年6月30日現在)

学部	学年	区分	定員	男子	女子	計	
小学部	1年	入学者	—	9	2	11	
		増加					
		減少					
		現在		9	2	11	
	2年	入学者	—	4	5	9	
		増加					
		減少		1		1	
		2年時当初		3	5	8	
		増加					
		減少					
		現在		3	5	8	
	3年	入学者	—	10	4	14	
		増加					
		減少					
		2年時当初		10	4	14	
		増加					
		減少		1		1	
		3年時当初		9	4	13	
	増加			1		1	
	減少						
		現在		10	4	14	
	4年	入学者	—	4	3	7	
		増加					
		減少					
		2年時当初		4	3	7	
		増加					
		減少					
		3年時当初		4	3	7	
		増加					
		減少			1		1
		4年時当初		4	2	6	
	増加						
	減少						
		現在		4	2	6	
	5年	入学者	—	13	4	17	
		増加					
		減少		1	1	2	
		2年時当初		12	3	15	
		増加		1	1	2	
		減少		1		1	
		3年時当初		12	4	16	
		増加					
		減少			1		1
		4年時当初		12	3	15	
		増加					
		減少		1		1	
	5年時当初		11	3	14		
	増加			1		1	
	減少						
		現在		11	4	15	
	6年	入学者	—	14	8	22	
		増加		1	1	2	
減少			1	1	2		
2年時当初			14	8	22		
増加							
減少							
3年時当初			14	8	22		
増加			1		1		
減少			1	2	3		
4年時当初			14	6	20		
増加							
減少			2		2		
5年時当初			12	6	18		
増加							
減少							
6年時当初		12	6	18			
増加							
減少							
	現在		12	6	18		
合 計				49	23	72	

学部	学年	区分	定員	男子	女子	計
中 学 部	1年	入学者	—	10	5	15
		増加				
		減少				
		現在		10	5	15
	2年	入学者	—	13	2	15
		増加				
		減少				
		2年時当初		13	2	15
		増加				
		減少				
		現在		13	2	15
	3年	入学者	—	8	4	12
		増加				
		減少				
2年時当初			8	4	12	
増加						
減少			1		1	
3年時当初			7	4	11	
	増加			1	1	
	減少					
	現在		7	5	12	
	合計		30	12	42	
高 等 部	1年	入学者	36	15	6	21
		増加				
		減少				
		現在		15	6	21
	2年	入学者	36	18	12	30
		増加				
		減少			1	1
		2年時当初		18	11	29
		増加				
		減少				
		現在		18	11	29
	3年	入学者	36	11	17	28
		増加				
		減少				
		2年時当初		11	17	28
		増加		1		
		減少				
3年時当初			12	17	29	
	増加					
	減少					
	現在		12	17	29	
	合計		45	34	79	
総合計				124	69	193

□□□□□□

入学志願者及び入学者数調

区 分		31年度	2年度	3年度	4年度	5年度
学 部 別		高等部	高等部	高等部	高等部	高等部
生徒定員 (A)		33	36	36	36	36
総募集者数 (B)		33	36	36	36	36
志願者数	男	20	20	11	18	15
	女	9	6	17	12	6
	計 (C)	29	26	28	30	21
受検者数	男	20	20	11	18	15
	女	9	6	17	12	6
	計 (D)	29	26	28	30	21
合格者数	男	20	20	11	18	15
	女	9	6	17	12	6
	計 (E)	29	26	28	30	21
志願倍率 (C)/(B)		0.88	0.72	0.78	0.83	0.58
受検倍率 (D)/(B)		0.88	0.72	0.78	0.83	0.58
入学者数	男	20	20	11	18	15
	女	9	6	17	12	6
	計 (F)	29	26	28	30	21
充足率 (F)/(A)		0.88	0.72	0.78	0.83	0.58

□□□□□□

卒 業 生 の 動 向 調

区 分		中 学 部	高 等 部		合 計
			本 科	専 攻 科	
高等学校 (本科)	全日制				0
	定時制				0
	通信制				0
特別支援学校高等部		10			10
その他高等学校等					0
大学等	大学（学部）				0
	短期大学（本科）				0
	大学・短期大学の通信教育学部等				0
	その他大学等				0
特別支援学校高等部専攻科					0
専修学校（専門課程）					0
専修学校（一般課程）・各種学校 公共職業能力開発施設等			1		1
就 職			5		5
上記以外※			19		19
不詳・死亡					0
計（卒業生総数）		10	25		35

（再掲）「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中 学 部	高 等 部		合 計
			本 科	専 攻 科	
児童福祉施設					
障害者支援施設			16		16
（うち就労系支援事業利用者）			8		8
医療機関					
計			16		16

□□□□□□

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地

(令和5年6月30日現在) (単位:人)

市町名	御殿場市	裾野市	小山町	その他	合計
生徒数	96	57	26	14	193
構成比%	46.6%	29.5%	13.5%	7.3%	100%

(2) 通学方法

(令和5年6月30日現在) (単位:人)

区分	スクールバス	公共交通機関等	自転車	保護者送迎	徒歩	合計
生徒数	77	47	0	67	2	193
構成比%	39.9%	24.4%	0.0%	34.7%	1.0%	100%

2 部(クラブ)の加入状況

(令和5年6月30日現在)

中学部

(単位:人)

区分	運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数	0	0	/	0
男子	1年	0	10	10
	2年	0	13	13
	3年	0	7	7
	計(A)	0	30	30
	構成比	0%	100%	100%
女子	1年	0	5	5
	2年	0	2	2
	3年	0	5	5
	計(B)	0	12	12
	構成比	0%	100%	100%
合計	(A+B)	0	42	42
	構成比	0%	100%	100%

高等部

(単位:人)

区分	運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数	2	0	/	2
男子	1年	9	6	15
	2年	4	14	18
	3年	4	8	12
	計(A)	16	28	44
	構成比	36%	64%	100%
女子	1年	1	5	6
	2年	1	10	11
	3年	2	15	17
	計(B)	4	30	34
	構成比	12%	88%	100%
合計	(A+B)	20	58	78
	構成比	26%	74%	100%

3 障害別児童生徒数

(令和5年6月30日現在) (単位:人)

区分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	学級数
小学部	単一障害	<input type="checkbox"/>	30	8					
	重複障害	<input type="checkbox"/>	33	11					
	肢体重複	<input type="checkbox"/>	9	5					
	合計	11	8	14	6	15	18	72	24
中学部	単一障害	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	/	/	/	27	6
	重複障害	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	/	/	/	10	3
	肢体重複	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	/	/	/	5	3
	合計	15	15	12	/	/	/	42	12
高等部	単一障害	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	/	/	/	63	8
	重複障害	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	/	/	/	7	3
	肢体重複	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	/	/	/	9	4
	合計	21	29	29	/	/	/	79	15

4 起因疾患別児童生徒数

(令和5年6月30日現在) (単位:人)

区分	脳・神経系疾患						染色体異常		自閉傾向	その他	計
	精神発達遅滞	脳性マヒ	てんかん	水頭症	後遺症 脳炎	その他	ダウン症候群	その他			
小学部	<input type="checkbox"/>	72									
中学部	<input type="checkbox"/>	42									
高等部	<input type="checkbox"/>	79									
計	57	10	7	3	0	12	16	15	70	3	193

特別支援学校における生産物売払調

令和5年度

(令和5年6月30日現在)

主な生産品目			
5 年 度	<手芸品・工作物> 箸袋、紙バンド製バスケット、ティッシュケース、キーホルダー、ピアス、ヘアゴム、イヤリング、コースター、トレイ、ペン立て <農作物>		
	① 売払金額	29,800 円	② 前年度との差額 △271,500 円
4 年 度	<手芸品・工作物> 紙バンド製バスケット、箸袋、ピアス、ヘアゴム、イヤリング、ヘアピン、キーホルダー、コースター、ペン立て、トレイ、米カイロ、匂い袋 <農作物> 水菜、小松菜、大根、ピーマン		
	① 売払金額	301,300 円	② 前年度との差額 76,050 円
3 年 度	<手芸品・工作物> 紙バンド製バスケット、箸袋、ピアス、しおり、イヤリング、ヘアピン、ブローチ、キーホルダー、ストラップ、匂い袋、米カイロ、コースター、ペン立て、トレイ、ペット用フードスタンド、箱、椅子 <農作物> ピーマン、ミニトマト、大根、白菜、さつまいも、ナス、かぶ		
	① 売払金額	225,250 円	② 前年度との差額 △70,500 円

□□□□□□

預 金 調

(令和5年6月30日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高 (円)	摘要
富士伊豆農協 神山支店	無利息型 普通預金	0074189	静岡県立御殿場特別支援学校 資金前渡者 校長 伊藤 聖子	0	給料及び資金前渡 金の受領
スルガ銀行 御殿場西支店	無利息型 普通預金	2403113	自振口 静岡県立御殿場特別支援学校 資金前渡者 伊藤 聖子	0	社会保険料、電話 料等の自動振り替え
スルガ銀行 御殿場西支店	無利息型 普通預金	2403112	静岡県立御殿場特別支援学校 就学奨励費 代理受領者 伊藤 聖子	0	就学奨励費の 代理受領
残 高 合 計				0	

□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和4年度)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					3年度	4年度	左のうち、3年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		40,090,845	
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費		18,339,430	
計					78,110,308	58,430,275	0
(14) 工事請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		0	
計					0	0	0
(16) 公有財産購入費						0	
計					0	0	0
(17) 備品購入費	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		1,250,260	
計					1,161,585	1,250,260	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		51,500	
計					42,500	51,500	0
(21) 補償、補填及び賠償金						0	
計					0	0	0

□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和5年度)

(令和5年6月30日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、4年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	6,709,340	0
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費	2,961,717	0
計					9,671,057	0
(14) 工事請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	0	0
計					0	0
(16) 公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17) 備品購入費	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	0	0
計					0	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	36,200	0
計					36,200	0
(21) 補償、補填及び賠償金					0	0
計					0	0

委 託 料 に 関 す る 調

(令和4年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	給食業務	㈱ユアーズ静岡	53,202,600	52,899,000	△ 8,624	52,890,376	一般	R2.8.1 R5.7.31	R4.5.26 R4.6.28 R4.7.26 R4.8.29 R4.9.28 R4.10.26 R4.11.28 R4.12.26 R5.1.27 R5.2.24 R5.3.27 R5.4.25 小計	(29,380,296) 1,469,380 1,469,380 1,469,380 1,469,380 1,469,380 1,469,380 1,469,380 1,469,380 1,469,380 1,469,380 1,469,380 17,632,560	給食調理及び配膳業務	2長期
2	通学バス輸送業務	㈱恋路企画	121,182,985	86,533,700	△ 511,035	86,022,665	一般	R4.4.1 R7.3.31	R4.5.26 R4.6.28 R4.7.26 R4.8.29 R4.9.28 R4.10.26 R4.11.28 R4.12.26 R5.1.23 R5.2.24 R5.3.27 R5.4.25 小計	2,327,710 2,327,710 2,327,710 2,327,710 2,327,710 2,327,710 2,327,710 2,327,710 2,327,710 2,327,710 2,327,710 2,327,710 27,932,520	児童・生徒の通学時の送迎及び校外活動送迎	4長期
3	スクールバス運行管理業務	㈱ドリーム観光バス	19,111,447	14,883,000		14,883,000	一般	R4.4.1 R7.3.31	R4.5.26 R4.6.28 R4.7.26 R4.8.29 R4.9.28 R4.10.26 R4.11.28 R4.12.26 R5.1.27 R5.2.24 R5.3.27 R5.4.25 小計	413,380 413,380 413,380 413,380 413,380 413,380 413,380 413,380 413,380 413,380 413,380 413,380 4,960,560	児童・生徒の通学時の送迎及び校外活動送迎、県有車両管理	4長期
4	エレベーター保守点検業務	日本オーチス・エレベーター㈱静岡支店	1,224,960	1,224,960		1,224,960	随契	R4.4.1 R5.3.31	R4.5.26 R4.6.28 R4.7.26 R4.8.29 R4.9.28 R4.10.26 R4.11.28 R4.12.26 R5.1.27 R5.2.24 R5.3.27 R5.4.25 小計	102,080 102,080 102,080 102,080 102,080 102,080 102,080 102,080 102,080 102,080 102,080 102,080 1,224,960	エレベーター保守点検	随契2号(不適)
5	防鼠防虫業務	㈱カンザイ	242,000	218,350		218,350	随契	R4.4.7 R5.3.31	R4.10.31 R5.4.25 小計	109,175 109,175 218,350	厨房・食堂の防鼠防虫業務	随契1号(少額)
6	給食可燃物収集運搬業務	㈱東海衛生	157,950	運搬料 1回あたり 990円 処分料 1kgあたり 8円	運搬料 1回あたり 880円 処分料 1kgあたり 8円	運搬料 1回あたり 880円 処分料 1kgあたり 8円	随契	R4.4.8 R5.3.31	R4.5.26 R4.6.28 R4.7.26 R4.8.29 R4.10.26 R4.11.28 R4.12.26 R5.1.27 R5.2.24 R5.3.27 R5.4.25 小計	10,200 13,856 14,808 10,512 12,672 13,392 13,256 10,976 9,880 13,400 9,168 132,120	給食調理に伴い発生する生ゴミの収集処分	随契1号(少額) 単価契約
7	来客・職員用トイレ清掃業務	さんしんハートフル㈱	98,340	98,340		98,340	随契	R4.4.15 R5.3.31	R4.6.10 R4.9.26 R4.11.11 R4.12.26 R5.2.24 R5.3.27 小計	16,390 16,390 16,390 16,390 16,390 16,390 98,340	来役・職員用トイレの清掃業務	随契1号(少額)

委託料に関する調

(令和4年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
8	産業廃棄物収集・運搬及び処分	富士総業(株)	81,400	81,400		81,400	随契	R4.5.17 R4.8.1	R4.6.15	81,400	産業廃棄物の収集運搬処理業務	随契1号(少額)
9	グリストラップ・排水管等清掃業務	(株)カンザイ	145,200	125,400		125,400	随契	R4.7.22 R5.3.31	R4.9.2 R5.1.27 R5.4.25 小計	41,800 41,800 41,800 125,400	厨房のグリストラップ清掃	随契1号(少額)
10	グリストラップ及び油脂分解装置に係る産業廃棄物収集・運搬	(有)マツナガ	134,750	134,750		134,750	随契	R4.7.22 R5.3.31	R4.9.7 R5.1.19 R5.4.7 小計	96,250 19,250 19,250 134,750	グリストラップ、油脂分解装置汚泥運搬	随契1号(少額)
11	グリストラップ及び油脂分解装置に係る産業廃棄物処分	クリーンサービス(株)	96,250	96,250		96,250	随契	R4.7.22 R5.3.31	R4.8.29 R5.1.27 R5.4.24 小計	68,750 13,750 13,750 96,250	グリストラップ、油脂分解装置汚泥処分	随契1号(少額)
12	臨時通学バス輸送業務	(株)恋路企画	2,030,600	2,030,600		2,030,600	随契	R4.8.31 R4.12.23	R4.9.28 R4.10.26 R4.11.28 R4.12.26 R5.1.23 小計	27,500 534,160 534,160 534,160 400,620 2,030,600	児童・生徒の登校の送迎	随契2号(不適)
13	臨時通学バス輸送業務	(株)恋路企画	1,458,600	1,458,600		1,458,600	随契	R5.1.6 R5.3.27	R5.2.24 R5.3.27 R5.4.25 小計	486,200 543,400 429,000 1,458,600	児童・生徒の登校の送迎	随契2号(不適)
14	産業廃棄物収集・運搬及び処分	富士総業(株)	81,400	81,400		81,400	随契	R5.2.6 R5.3.24	R5.3.7	81,400	産業廃棄物の収集運搬処理業務	随契1号(少額)
	事務関係計	14件	199,248,482							56,207,810		
	合計	14件	199,248,482							56,207,810		
参考1	(事務関係) 警備業務	セコム(株)	円			円		R1.10.1 R6.9.30		円	校内機械警備	御殿場高校
参考2	自家用電気工作物保安管理業務	金指電気管理事務所		620,400		620,400		R4.4.1 R5.3.31			自家用電気工作物の維持保安に関する業務	御殿場南高校
参考3	消防用設備等保守点検業務	伊豆防災機器(株)		3,636,160		3,636,160		R4.4.1 R5.3.31			消防用設備保守点検	御殿場高校
参考4	浄化槽保守点検業務	三友水処理(株)		902,000		902,000		R4.4.1 R5.3.31			浄化槽維持管理	沼津東高校
参考5	可燃物収集運搬処分業務	(株)東海衛生		運搬料 1回あたり 880円 処分料 1kgあたり 8円		運搬料 1回あたり 880円 処分料 1kgあたり 8円		R4.4.5 R5.3.31			可燃物収集運搬処分	単価契約 小山高校
参考6	プール浄化装置保守点検業務	三友水処理(株)		200,200		200,200		R4.4.14 R4.11.30			プール浄化装置保守点検	沼津西高校
参考7	建築基準法第12条に基づく定期点検業務	(有)コーセイ産業		660,000		660,000		R4.9.2 R4.12.23			建築基準法第12条点検	御殿場南高校
	合計	7件										

委託料に関する調

(令和5年度)
(令和5年6月30日現在)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	給食業務	㈱ユアーズ静岡	53,202,600	52,899,000	△ 8,624	52,890,376	一般	R2.8.1 R5.7.31	R5.5.26 R5.6.26	円 (47,012,856) 1,469,380 1,469,380	給食調理及び配膳業務	2長期
									小計	2,938,760		
2	通学バス輸送業務	㈱恋路企画	121,182,985	86,533,700	△ 511,035	86,022,665	一般	R4.4.1 R7.3.31	R5.5.26 R5.6.26	(27,932,520) 2,327,710 2,327,710	児童・生徒の通学時の送迎及び校外活動送迎	4長期
									小計	4,655,420		
3	スクールバス運行管理業務	㈱ドリーム観光バス	19,111,447	14,883,000		14,883,000	一般	R4.4.1 R7.3.31	R5.5.26 R5.6.26	(4,960,560) 413,380 413,380	児童・生徒の通学時の送迎及び校外活動送迎、県有車両管理	4長期
									小計	826,760		
4	エレベーター保守点検業務	日本オーチス・エレベータ㈱静岡支店	1,409,760	1,409,760		1,409,760	随契	R5.4.1 R6.3.31	R5.5.26 R5.6.26	117,480 117,480	エレベーター保守点検	随契2号(不適)
									小計	234,960		
5	防鼠防虫業務	㈱カンザイ	242,000	218,350		218,350	随契	R5.4.11 R6.3.29			厨房・食堂の防鼠防虫業務	随契1号(少額)
6	給食可燃物収集運搬業務	㈱東海衛生	147,516 運搬料 1回あたり 990円 処分料 1kgあたり 8円	147,516 運搬料 1回あたり 935円 処分料 1kgあたり 8円		147,516 運搬料 1回あたり 935円 処分料 1kgあたり 8円	随契	R5.4.12 R6.3.29	R5.5.26 R5.6.26	9,552 13,405	給食調理に伴い発生する生ゴミの収集処分	随契1号(少額) 単価契約
									小計	22,957		
7	来客・職員用トイレ清掃業務	さんしんハートフル㈱	99,000	99,000		99,000	随契	R5.5.1 R6.3.31	R5.6.26	19,800	来役・職員用トイレの清掃業務	随契1号(少額)
	事務関係計	7件	195,395,308							8,698,657		
	合計	7件	195,395,308							8,698,657		
参考1	(事務関係) 警備業務	セコム㈱						R1.10.1 R6.9.30			校内機械警備	御殿場高校
参考2	自家用電気工作物保安管理業務	金指電気管理事務所						R5.4.1 R6.3.31			自家用電気工作物の維持保安に関する業務	御殿場南高校
参考3	消防用設備等保守点検業務	伊豆防災機器㈱						R5.4.1 R6.3.31			消防用設備保守点検	御殿場高校
参考4	浄化槽保守点検業務	三友水処理㈱						R5.4.1 R6.3.31			浄化槽維持管理	沼津東高校
参考5	可燃物収集運搬処分業務	㈱東海衛生						R5.4.4 R6.3.31			可燃物収集運搬処分	単価契約 小山高校
参考6	プール浄化装置保守点検業務	三友水処理㈱						R5.4.13 R5.11.30			プール浄化装置保守点検	沼津西高校
	合計	6件										

□□□□□□

負 担 金 支 出 調

(令和4年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	安全運転管理協会費	御殿場地区安全運転管理協会	会則による	安全運転管理者の資質の向上及び交通安全の実現に寄与する	円 23,000	R4. 5. 31
2	全国特別支援学校知的障害教育校長会会費	全国特別支援学校知的障害教育校長会	全国特別支援学校知的障害教育校長会会則	特別支援教育ならびに知的障害教育の振興を図る	11,000	R4. 7. 14
3	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会費	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会規約	特別支援学校知的障害教育の振興並びに会員の研修と互助を図る	5,000	R4. 7. 21
4	安全運転管理者講習受講手数料	一般社団法人 静岡県安全運転管理協会	道路交通法第112条第1項第12号	道路交通法第108条の2第1項第1号に掲げる講習	4,500	R4. 7. 25
5	甲種防火管理新規講習講習料	一般財団法人 日本防火・防災協会	講習会案内による	防火管理者資格を取得する	8,000	R4. 11. 15
計		5件			51,500	

□□□□□□

負 担 金 支 出 調

(令和5年度)

(令和5年6月30日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	安全運転管理協会費	御殿場地区安全運転管理協会	会則による	安全運転管理者の資質の向上及び交通安全の実現に寄与する	円 23,000	R5. 4. 21
2	特別管理産業廃棄物管理責任者講習受講料	公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター	講習会案内による	特別管理産業廃棄物管理責任者資格を取得する	13,200	R5. 5. 23
計		2件			36,200	

□□□□□□

公 有 財 産 調

(令和4年度)

区 分	令和4年3月31日現在		増		減		令和5年3月31日現在		摘要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産	/	千円 1,255,656	/	千円 0	/	千円 43,398	/	千円 1,212,258	
土 地	m ² 18,000.05	314,538					m ² 18,000.05	314,538	
立木竹	本 91	2,731			7	125	本 84	2,606	
建 物	m ² <u>4,407.63</u> 6,558.46	757,002				34,904	m ² <u>4,407.63</u> 6,558.46	722,098	
工作物	個 68	181,385	1	0		8,369	個 69	173,016	
公有財産に準ずるもの	/	231	/		/		/	231	
電 話加入権	本 3	231					本 3	231	

□□□□□□

公 有 財 産 調

(令和5年6月30日現在)

区 分	令和5年3月31日現在		増		減		令和5年6月30日現在		摘要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産	/	千円 1,212,258	/	千円 0	/	千円 31	/	千円 1,212,227	
土 地	m ² 18,000.05	314,538					m ² 18,000.05	314,538	
立木竹	本 84	2,606			1	31	本 83	2,575	
建 物	m ² <u>4,407.63</u> 6,558.46	722,098					m ² <u>4,407.63</u> 6,558.46	722,098	
工作物	個 69	173,016					個 69	173,016	
公有財産に準ずるもの	/	231	/		/		/	231	
電 話 加入権	本 3	231					本 3	231	

□□□□□□

借地借家等調

(令和5年6月30日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量 又は 面積	借料		契約期間	所有者又は 契約者氏名	用途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	敷地	御殿場市神山 1925-1641	雑種地	雑種地	㎡ 0.25	円 0	円 0	R5.4.1 ～ R6.3.31	個人	案内看板 設置場所
2	工作物	雑工作物	御殿場市 神山1553-3	外灯用器具 鋼管ポール	外灯用器具 鋼管ポール	基 4	円 0	円 0	R5.4.1 ～ R6.3.31	静岡県立御殿場 特別支援学校PTA	防犯用
3	工作物	雑工作物	御殿場市 神山1553-3	アルミ製 パーゴラ	アルミ製 パーゴラ	基 1	円 0	円 0	R5.4.1 ～ R6.3.31	静岡県立御殿場 特別支援学校PTA	校内緑化用
	計							円 0			

□□□□□□

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和5年度)
(令和5年6月30日現在)

区分	事業名又は契約名	内 容	契約額							
				31年度/元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
			円	円	円	円	円	円	円	円
長期継続契約	電子複写機賃貸借契約	カラー1台 モノクロ1台 (契約日) 平成31年4月1日	4,341,821	862,034	869,940	869,940	869,940	869,967		
長期継続契約	給食業務	給食調理・配膳業務1式 (契約日) 令和2年7月28日	52,890,376		11,747,736	17,632,560	17,632,560	5,877,520		
長期継続契約	電子複写機賃貸借契約	モノクロ1台 (契約日) 令和3年4月1日	434,739			120,579	78,540	78,540	78,540	78,540
長期継続契約	通学バス輸送業務	児童・生徒の通学時の送迎及び校外活動送迎 (契約日) 令和4年4月1日	86,022,665				30,154,985	27,932,520	27,935,160	
長期継続契約	スクールバス運行管理業務	児童・生徒の通学時の送迎及び校外活動送迎 県有車両管理 (契約日) 令和4年4月1日	14,883,000				4,960,560	4,960,560	4,961,880	

□□□□□□

行政財産貸付・使用許可調

(令和5年6月30日現在)

整理 番号	区 分	種 別	所在地	地 目		数 量 又 は 面 積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸 付 ・ 使用許可 目 的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	敷地	御殿場市 神山1553-3	学校 敷地	学校 敷地	m ² 0.08	円 免除	円 免除	02. 4. 1 ～ 07. 3. 31	御殿場市長	地域防災 無線設置
	建物	事務所建		建物	校舎						
2	土地	敷地	御殿場市 神山1553-3	学校 敷地	学校 敷地	m ² 0.56	円 免除	円 免除	02. 4. 1 ～ 07. 3. 31	御殿場特別支援学校 P T A会長	防 犯 用 外灯設置
3	土地	敷地	御殿場市 神山1553-3	学校 敷地	学校 敷地	m ² 12.44	円 免除	円 免除	02. 4. 1 ～ 07. 3. 31	御殿場特別支援学校 P T A会長	緑 化 用 パーゴラ 設 置
合 計								円 0			

主 要 備 品 調

(令和5年6月30日現在)

整理 番号	区 分		品 名・規 格	利 用 状 況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	01-13	加熱器具	加熱器具 コメットカウ CSV-G20	毎日（年間194日） 給食調理用	平成 23・ 3	円 3,563,175
2	09-01	展示品	日本絵画「生きる」 湯山 東氏作	生徒昇降口に展示	平成 12. 4	3,500,000
3	01-13	その他の厨房器具	その他の厨房器具 真空冷却機CMJ-2	毎日（年間194日） 給食調理用	平成 20. 8	2,572,500
4	06-06	炉	電気陶芸窯 新日本造形 CK-2	月1回（年間12日） 授業用	平成 23. 3	1,592,850
5	01-13	食品食器洗浄機	自動食器洗浄機 アイホー AEN1-1SB	毎日（年間194日） 食器洗浄用	平成 20. 1	1,560,000
6	02-01	パーソナルコンピ ュータ(一式)	パーソナルコンピュータ (タブレットPC一式)iPad	週2回（年間80日） 授業用	平成 27. 3	1,500,228
7	01-13	ユニットキッチン	器具洗浄シンク 中松 ステンレス特注品	毎日（年間194日） 給食調理用	平成 12. 3	1,496,000
8	01-13	ユニットキッチン	野菜用三槽シンク 中松 ステンレス特注品	毎日（年間194日） 給食調理用	平成 12. 3	1,278,000
9	02-02	その他の情報伝達 機器	電子情報ボード	毎日（年間201日） 教材提示用	平成 19. 8	1,270,500
10	06-09	木工用機械	自動カンナ盤 常磐工業 AD-401	週1回（年間40日） 作業学習（木工）用	平成 12. 3	1,137,000
11	01-13	その他の厨房器具	電気湿温蔵庫 ニチワIHS-1275AG	毎日（年間194日） 給食保温保管用	平成 23. 3	1,134,000
12	10-07	鍵盤楽器	鍵盤楽器 電子ピアノ DGP-2XG	週2回（年間80日） 授業用	平成 20.12	981,750
13	01-13	食品食器洗浄機	食品食器洗浄機 ドアタイプSD82GB-LB	毎日（年間194日） 給食食器洗浄用	令和 2. 8	979,000
14	01-19	掲示板・黒板	掲示板 ソフトフレーム 20m×1.2m	毎日（年間365日） 掲示用	平成 21. 3	874,650
15	02-01	パーソナルコンピ ューター周辺機器	タブレット端末一式 EB-536WT、PR-9、ACERA1010	毎日（年間201日） 授業用	平成 29. 7	808,380
16	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ カワイRX-1A	週3回（年間120日） 授業用（集会室）	平成 12. 3	802,200
17	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ カワイRX-1A	週2回（年間80日） 音楽授業用（音楽室）	平成 12. 3	802,200
18	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ ヤマハ C3	月2回（年間24日） 式典・行事用	平成 16.12	785,000
19	02-02	放送装置	放送装置 Event Amplifier	毎日（年間201日） 校内放送用	平成 12. 3	723,000
20	10-06	教育調理器具	教育調理器具 調理台 ヤガミ	週2回（年間80日） 授業用	平成 12. 3	693,000

□□□□□□

職 員 調

(令和5年6月30日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	校長	伊藤 聖子	総括	□□□□□□	年 月 □ . □	□□□□□□
2	副校長	吉澤 道雄	総括補助	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
3	教頭	板垣 久	総括補助	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
4	事務長	村松 涼子	事務総括	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
5	教諭	小林 由美	高等部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
6	教諭	田口 誠	高等部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
7	教諭	大石 啓文	中学部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
8	教諭	松山 幸尚	中学部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
9	教諭	前田 慶二	高等部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
10	教諭	青島 妙子	小学部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
11	教諭	保科 雄二	小学部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
12	教諭	高田 晶子	小学部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
13	教諭	小割 めぐみ	小学部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
14	教諭	長田 千鶴	中学部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
15	教諭	佐藤 陽子	小学部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
16	教諭	勝又 飛鳥	小学部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
17	教諭	中 康平	中学部主事	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
18	教諭	外岡 直子	小学部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
19	教諭	遠藤 道子	高等部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
20	教諭	勝間田 ひな子	高等部主事	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
21	教諭	岩藤 博子	小学部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
22	教諭	佐野 剛成	小学部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
23	教諭	鈴木 真紀子	小学部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
24	教諭	石澤 越代	小学部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
25	教諭	松浦 賢次	高等部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
26	教諭	中谷 友	高等部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
27	教諭	稲木 龍元	小学部主事	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
28	教諭	渡邊 美聖	高等部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
29	教諭	加藤 真弓	高等部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□
30	教諭	鎌野 輝幸	小学部	□□□□□□	□ . □	□□□□□□

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
31	教諭	宮城 美歩	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
32	教諭	小花 友梨	中学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
33	教諭	宮澤 晃尚	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
34	教諭	美藤 能	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
35	教諭	市川 悦子	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
36	教諭	松浦 隆介	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
37	教諭	田中 美清	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
38	教諭	片山 由絵	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
39	教諭	太田 洋介	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
40	教諭	沖谷 迪子	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
41	教諭	横山 達郎	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
42	教諭	坂本 宣子	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
43	教諭	縣 千絵	中学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
44	教諭	田中 善明	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
45	教諭	三澤 有希	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
46	教諭	遠藤 あゆみ	中学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
47	教諭	大石 麻里	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
48	教諭	清水 真由美	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
49	教諭	佐藤 晃平	中学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
50	教諭	杉山 早耶香	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
51	教諭	大村 直子	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
52	教諭	東 亮宏	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
53	教諭	屋 百合	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
54	教諭	稲葉 良太	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
55	教諭	鈴木 健太	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
56	教諭	柚岡 瞬	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
57	教諭	長島 翔	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
58	教諭	遠藤 みどり	中学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
59	教諭	橋本 亜希子	中学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
60	教諭	高田 真央	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
61	教諭	瀬戸 浩祥	中学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
62	教諭	藤田 瑞穂	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
63	教諭	島村 壮一郎	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
64	教諭	岩佐 江里子	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
65	教諭	小林 傑	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
66	教諭	白川 香純	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
67	教諭	小林 将大	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
68	教諭	小林 大地	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
69	教諭	熊王 瑞華	中学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
70	教諭	杉本 貴志	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
71	教諭	城内 大輝	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
72	教諭	小松 孝英	中学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
73	教諭	長橋 加奈	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
74	教諭	古根村 愛里	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
75	教諭	齋藤 奈那美	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
76	教諭	高田 計規	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
77	教諭	新里 理穂	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
78	教諭	風岡 奏	中学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
79	教諭	山田 英鈴	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
80	教諭	太田 桃子	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
81	教諭	蓑毛 泰都	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
82	教諭	時田 奈々	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
83	教諭	鈴木 直也	中学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
84	教諭	鈴木 咲	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
85	教諭	山田 千緋呂	中学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
86	教諭	後藤 朋香	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
87	教諭	金岡 涼	中学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
88	教諭	渡邊 心平	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
89	教諭	清水 愛	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
90	教諭	一杉 里奈	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
91	教諭	坂井 理夏	中学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
92	教諭	田邊 友結	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
93	教諭	紅林 由芽	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
94	教諭	後藤 璃子	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
95	教諭	野本 香穂	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
96	養護教諭	中村 幸世	養護	□□□□□□	□.□	□□□□□□
97	養護教諭	花岡 瑞穂	養護	□□□□□□	□.□	□□□□□□
98	主査	伊藤 淳子	会計	□□□□□□	□.□	□□□□□□

整理 番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
99	主査	米山 裕子	管財	□□□□□□	□.□	□□□□□□
100	主事	野毛 信孝	給与	□□□□□□	□.□	□□□□□□
				平均年数	□.□	

□□□□□□

職 員 調 (臨時・会計年度任用職員)

(令和5年6月30日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数 年 月	摘 要
1	教諭(任)	青木 裕美子	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
2	教諭(任)	的場 有希恵	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
3	教諭(任)	中村 かおり	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
4	教諭(任)	西山 ちづる	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
5	教諭(任)	植田 美鈴	中学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
6	教諭(任)	中村 明陽子	小学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
7	教諭(任)	日吉 隆太	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
8	養護教諭(任)	杉本 祐希	養護	□□□□□□	□.□	□□□□□□
9	教諭(臨)	田中 正恵	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
10	教諭(臨)	石黒 友香	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
11	教諭(臨)	高田 実咲	中学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
12	教諭(臨)	上杉 尚輝	中学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
13	教諭(臨)	森 達哉	中学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
14	教諭(臨)	泉谷 雛子	高等部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
15	教諭(臨)	田中 久美子	中学部	□□□□□□	□.□	□□□□□□
16	栄養士(臨)	鈴木 麻友	給食	□□□□□□	□.□	□□□□□□
17	医療的ケア看護職員	佐野 美智子	看護	□□□□□□	□.□	□□□□□□
18	非常勤労務職員	根上 明美	スクールバス添乗	□□□□□□	□.□	
19	非常勤労務職員	長田 美香	スクールバス添乗	□□□□□□	□.□	
20	非常勤労務職員	松岡 由香里	スクールバス添乗	□□□□□□	□.□	
21	非常勤労務職員	岩田 たえ	スクールバス添乗	□□□□□□	□.□	
22	非常勤労務職員	高堰 智子	スクールバス添乗	□□□□□□	□.□	
23	非常勤労務職員	北野 明子	介助(中学部)	□□□□□□	□.□	
24	非常勤労務職員	竹内 梨沙	コロナ対策	□□□□□□	□.□	
25	非常勤労務職員	池田 真由美	用務員	□□□□□□	□.□	
26	非常勤労務職員	関屋 忠史	用務員	□□□□□□	□.□	
27	実習支援指導員	長谷川 玉樹	指導	□□□□□□	□.□	
28	非常勤嘱託員	岩本 憲大	実習支援員	□□□□□□	□.□	
29	非常勤嘱託員	鈴木 巧	事務員	□□□□□□	□.□	
30	学 校 医	田内 守之	内 科	□□□□□□	□.□	□□□□□□
31	学 校 医	石川 昭	眼 科	□□□□□□	□.□	
32	学 校 医	齋藤 彰治	耳鼻科	□□□□□□	□.□	
33	学 校 医	渡辺 幸雄	整形外科	□□□□□□	□.□	
34	学 校 医	吉津 和憲	歯 科	□□□□□□	□.□	
35	薬 剤 師	長田 進	薬剤師	□□□□□□	□.□	

□□□□□□

職員の年齢調

(令和5年6月30日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0 ^人	
20歳以上30歳未満	16	
30歳以上40歳未満	37	
40歳以上50歳未満	25	
50歳以上56歳未満	15	
56歳以上61歳未満	4	
61歳以上	3	再任用
計	100	平均年齢 39.1歳

□□□□□□

健 康 管 理

1 令和4年度受診状況

区分	内容	
受診状況	受診者数	104人
	職員数	106人
受診率	100%	
県平均受診率	100%	

未受診の理由

□□□□□□ □人

□□□□□□ □人

2 令和5年度在籍者の健康管理区分結果

健康管理区分			人数(人)
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要治療	
B 2		要経過観察	
C 1	勤務をほぼ平常に行っており、症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要治療	1 (1)
C 2		要経過観察	
D 1	平常の勤務でよい。	要治療	2 (2)
D 2		要経過観察	4 (4)
D 3		医療不要	89 (89)
区 分 者 計			96 (96)
未 区 分 者 数			4 (4)
合 計			100 (100)

(1) 管理区分A～C 2該当者に対する措置状況

□□□□□□

(2) 未区分の理由

ア □□□□□□ □人

イ □□□□□□ □人

ウ □□□□□□ 人

エ □□□□□□ 人